



この本の見所は、原爆の怖さです。そのことを考えつつ読んでみてください。

次に、かかっている内容についてお話しします。

1. 原爆が投下されて爆発すると、爆心から一メートル以内の人は90%近くの人々が亡く

なってしまったり、その爆心から離れていた人たちも原爆から放たれた放射線の後遺症が忍びよっていたそうです。このような戦後も被爆者を苦しめ続ける話や被爆者の訴えを書いています。

●次に、書くのは、ぼくが興味を持ったことを書いていきます。

2. ぼくが興味を持ったところは、広島に投下されたウラン原爆と言ってもすごい威力のある原子爆弾を上回る原子爆弾が長崎に投下されたのです。その原子爆弾は、ウラン性の原爆とは違い、威力は1,4倍高性能火薬21,000トンにも相当しているものの、死者が73,881人、重傷者74,909人、被災者120,820人、18,403戸という数の人たちが被害にあったそうです。このことに僕は『すごいな〜』と思いました。
3. 感想…元から原爆は怖いと思っていたけれどこの本を読んでもっと怖いと思いました。本当に原爆は恐ろしいです。

